

## 親になるための教育

2月24日(火)に長崎女子短期大学の滝川由香里先生をお招きして、3年生を対象に「親になるための教育」を実施しました。講演では、以下のようなことを先生から教えていただきました。

- ①赤ちゃんを大人がきちんと世話をすることにより、赤ちゃんは希望や信頼感をもつことができようになり、これらが赤ちゃんの人格形成の土台になる。
- ②赤ちゃんの人生の根っこをつくるためには、親が赤ちゃんを抱っこしたり、赤ちゃんをありのまま愛し、家族仲良くすることなどが大切である。
- ③男女交際では、(交際の在り方について)相手の自己決定を尊重する前に、自らが自己決定を行うことが大切である。
- ④今後の交際の中で、性の自己決定、中でも赤ちゃんを産む・産まないという選択は、パートナーの心・身体・未来に関わる大切な選択である。
- ⑤デートDVや男女交際で悩んだときには、1人で悩みを抱え込まないで、親や友人、病院の医師や看護師などに相談することが大切である。

卒業を目前に控え、男女交際の在り方を再考し、親になるためには精神的に成長することが大切であるということに気付かされ、大変貴重な時間になりました。

(3学年主任 田尻 慎二)



## 卒業生へ贈る言葉 3学年の先生方より



卒業おめでとう。人間性を磨き、世の中に貢献できる人間であれ!

(学年主任 3年1組 副担任 田尻 慎二)



楽しい1年間を送ることができました。卒業しても顔を見せに来てくださいね。

(3年1組 担任 西村 雅人)



卒業、おめでとうございます。社会貢献を目指して頑張ってください。

(3年1組 副担任 田原 孝一)



これからは、「世間」という大きな学校の中で成長してほしい。

(3年2組 担任 藤迫 明)



何事も一生懸命頑張ってください。応援しています。

(3年2組 副担任 永瀬 諒)



君たちがこれからどのように成長していくか、近況報告を楽しみにしておきます。

(3年3組 担任 永石 美香子)



「曇天に笑え!」どんなにつらく、苦しいことがあっても「晴れの来ない日はない」。

(3年3組副担任 宮崎 恵)



波高の主役は交替しても、人生の主役はこれからだ。卒業おめでとう!

(3年3・4組 副担任 安達 健)



どんな道でも、歩けない道はない。一步一步、ゆっくりゆっくり、頑張れ!

(3年4組 担任 本田 球見子)

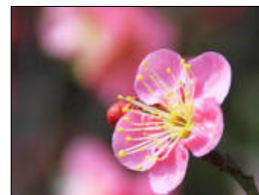


たくましく、生きていってください。

(3年4組 副担任 丸屋 陽子)



何事にも「一生懸命」に。いや!「一所懸命」に。自分の与えられた場所で全力投球! 幸多かれと祈ります。(中村 寧)



〈校訓〉 自律・積極・究理

# 波高通信



〈スローガン〉 人間性を育み、仲間を支え、個性を磨く

第11号 平成27年3月1日発行

校長室より

### 「大志を胸に」



第38回卒業生の皆さん、卒業おめでとう。二つのことを述べて饒の言葉とします。一つ目は、「明るい笑顔と爽やかな挨拶」についてです。

私は、昨年4月、期待と不安を胸にこの波佐見高校に赴任してまいりました。皆さんの明るい笑顔と爽やかな挨拶に出会ったとき、その不安は全くなくなりました。そのときの感動を私は忘れることができません。これは、皆さんが、全校集会や体育の授業の始めに行っている「オアシス運動」を通して、自分自身の内面を育ててきたのはもちろんですが、日頃から思いやりの気持ちを持って相手と接することを心がけてきたからであると思います。昨年10月の「あなたを笑顔に」をテーマに開催した大文化祭は、全校生徒の気持ちが一つになり、実に感動的なものでした。まさに、皆さんが、相手のことを思いやりながら学校生活を送ってきた証となりました。

最近では、思いを伝える手段として、SNSを利用する人が増えてきました。しかし、便利な面がある一方で、気持ちを伝えることが困難になっているという一面があるように思います。ちょっとしたニュアンスの違いで誤解を生んだり、反応するタイミングを逃して相手との関係が悪化したりすることがあります。ここに、相手の顔を見ないコミュニケーション手段の限界があると思います。相手と顔を合わせて話す言葉は、言葉だけで機能しているわけではありません。相手の表情、声色やしぐさなど様々な要素が、大きくその意味を伝える役割を果たしています。こういう時代だからこそ、相手の目をしっかりと見て、自分の思いを、自分の声で、自分の表情とともに、伝えることが重要となってきていると思います。その第一歩が明るい笑顔であり爽やかな挨拶なのです。

皆さんがこれから進む新しい環境にいるのは、知らない人ばかりでしょう。しかし、知らない人が多いということは、自分にとって新しい出会いがたくさん用意されているということでもあります。そういう人たちと、時にぶつかり合い、時に協力しあって、ともに喜び、ともに泣く中で、お互いを支え、助け合える仲間というのはつくられていきます。そのなかかけがえのない、生涯の友となる人がいるかもしれません。緊張や警戒を解き、傷つくことを恐れず心を開いてみてください。どのようにすればよいのでしょうか。決して難しくはありません。自分の方から、明るい笑顔と爽やかな挨拶をすることです。皆さん一人一人には、笑顔や挨拶のもととなる、相手を察する心、つまり、相手を思いやる心が、波佐見高校3年間で、しっかりと身につけています。自信をもって進んでください。

二つ目は、「かけがえのない命」についてです。

映画監督の山田洋次は、映画「男はつらいよ」の中で、「人間は何のために生きているのか?」という問いに対して、主人公の寅次郎に次のように言わせています。「生まれて来てよかったなって、思うことが何べんかあるだろう、そのために人間生きてんじゃねえのか」卒業生の皆さん、あなたは、世界に一人しかいません。あなたの人生は誰にも代えられない、かけがえのない人生です。あなたにはよく見えなくても知れませんが、いろいろな多くの力のおかげで、あなたが生きていることを知ってください。あなたが手にした一枚の卒業証書の中に、どんなに多くの人の祈りが込められているか、そのことを思ってください。そして、あなたが、これから歩む人生の中で、「生まれてきてよかった」と思える瞬間を、たくさん見つけてください。そのことは、周りにいる人たちの喜びでもあるのです。

我が国では、事件や事故、自然災害により、多くの方々を命を落とされています。世界に目を向けると、常にどこかで紛争やテロ行為が起り、罪のない多くの命が奪われています。こういう時代だからこそ、自分や他人のかけがえのない命を守る大切さを認識し、生きる喜びを共有できる社会の実現を目指さなければなりません。我が国、そして世界の幸せな未来は、皆さんの肩にかかっているということを自覚してください。そのためにも、皆さんには、まずは明るい笑顔と爽やかな挨拶で人と人のつながりを強め、何よりも尊くかけがえのない命を大切に、自分らしく生きていってほしいと思います。

大志を胸に、これからの人生に向かって元気に進んでいく卒業生の皆さんの輝かしい未来を願っています。

(第38回卒業証書授与式校長式辞より 野田定延)





## 長崎県アンサンブルコンテスト

### 「凜〜一打一打に想いを込めて〜」

12月21日(日)に第41回長崎県アンサンブルコンテストが開催されました。本校からは校内予選で選ばれた「打楽器三重奏」が出演しました。

アンサンブルコンテストとは、3〜8人の少人数編成で5分以内に任意の曲を演奏するものです。5分間の演奏を成功させるために、早朝や昼休み、そして放課後と使える時間は全て練習に費やしてきました。「ラプソディーⅢ-凜」という曲を演奏しましたが、3人での打楽器演奏は難しく、タイミングを合わせることや呼吸を合わせることに苦労していました。「今年も絶対金賞を狙いたい」と気合を入れてステージ向かい、力を十分に発揮できたことで見事「金賞」を受賞することができました。

(吹奏楽部顧問 大小瀬 泉子)

私たちは諫早文化会館で行われた、長崎県アンサンブルコンテストに出場しました。九州大会出場を狙って練習を積み重ねてきたこともあり、2年連続で金賞を受賞することができました。しかし、練習のときは3人の息がそろわず苦労することがたくさんありました。本番では3人も練習の成果を発揮できた結果、出場40校の中で上位に入ることができました。

あと一歩というところで九州大会は逃してしまいましたが、努力したことが結果につながって本当に嬉しかったです。次は、夏の吹奏楽コンクールに向けて部員一丸となって「金賞」目指して頑張ります。ご期待ください。

(打楽器パートリーダー 寺井 千夏)



## 校内ロードレース大会

### 「完走」を目指して!

2月6日(金)に、校内ロードレース大会が開催されました。天候にも恵まれ、全員が完走して素晴らしい大会になりました。男子12キロ、女子8キロ。本当に走れるのか、スタート前はとても不安な生徒たちでしたが、ゴールするたびに「頑張ったよー」「完走だー」「気持ちいいー」と笑顔で話していました。

記録に挑戦した人、10位入賞を目指した人、完走を目指した人と、それぞれが持つ目標は違いましたが、全員が最後まで諦めずに頑張り、自分との戦いを制して、充実感を味わいました。

保護者の方々には、前日の夜遅くまで、当日は早朝から、おいしい豚汁とおにぎりを提供していただき、感謝いたします。生徒は「うまー」「きつさもふきとんだー」と、温かいご馳走をいただき、最高の笑顔を見せていました。保護者の皆さまの心も体も温まる有り難いおもてなし、本当に有り難うございました。

(保健体育科主任 本田 球見子)



上位入賞を果たした生徒

## 豚汁炊き出し

### 達成感と笑顔

2月6日(金)、冬の快晴の下、波高ロードレース大会が行われました。女子8km、男子12kmの長い距離を、波高生が駆け抜けました。今年はロードレースに絶好の日和で、肌を刺す寒風もなく、昨年の小雨混じりで冷たさが身にしみた大会とは大違いでした。出走者全員が完走し、ハトハトになりながらも、完走の達成感と満足の笑顔をついに味わうことができました。味わうといえば、もちろん豚汁です。生徒は頑張ったご褒美として、美味しい豚汁とおにぎりに舌鼓を打っていました。これは十数名のお母さん方が前日の夜8時半まで仕込みをし、翌朝も7時過ぎには準備に取りかかって作ってくださったものです。子どもたちの笑顔を見たい一心で、お忙しいのに時間を割いて、頑張られたのです。お手伝いをいただいたお母さん、お父さん方、ご協力をいただきましたことを、本当に感謝いたします。なお、お腹がいっぱいになった波高生全員が午後から漢字検定にトライしました。波高生にとって、文武両道を実践した1日となりました。

(教務主任 安達 健)



## 1年インターンシップ発表会 働く意味を考える

2月17日から3日間、様々な業種の47事業所の協力を得て、1年生がインターンシップ(就業体験)を行いました。目的は、「社会人として必要な能力とは何か」「働くことの意義とは何か」を実際に体感し、勤労観を育むことでした。また、今回から研修発表会を予定していたので、実習前からしっかりと目標を持ち、従業員の方々と積極的にコミュニケーションを取っていました。生徒実行委員会を中心とした発表会では、「園児と楽しく遊んだ」「こんなにきつい仕事だった」「このような資格・能力が必要だ」「裏ではこんな大変な作業もあった」等と、47の班が、体験したことや学んだことを各々工夫しながら発表して、学年全体で共有することができました。研修先の事業所からは、「声が小さかった」「笑顔が硬かった」などのご指摘(ありがたいアドバイス)もありましたが、「挨拶が良かった」「積極的に働いてくれた」「元気をもらった」など、お褒めの言葉も多く、全体的に高い評価をいただきました。1年生全員が、立派な労働人になるきっかけにしてほしいと思います。

「労働が人を成長させる。どんな人間になりたいかが仕事内容を決定する」  
(1学年主任 川瀬 啓典)



## 美術・工芸科1年陶芸教育

### 伝統工芸士に絵付けの技法を学ぶ

1月27日(火)、美術・工芸科1年生を対象に4名の伝統工芸士の方を迎え、陶芸教育(陶磁器の絵付け)を実施しました。内容は「たこ唐草文様」の呉須による下絵付けでした。生徒は当日の活動がすぐに始められるように事前準備として、磁器皿に文様の下描きを行いました。地元で活躍されている伝統工芸士の先生方から指導していただけることをとても楽しみにしていました。

実際の絵付け指導では、筆の持ち方や使い方、呉須の濃さや調整方法、磁器皿の持ち方など、本当にきめ細かなご指導をしていただきました。美術・工芸科1年生20名は、絵を描くことやものづくりへの興味・関心が高い生徒たちで、熱心に指導してくださる先生方から、必死に学ぼうとする姿勢が見られ、時間が経つのをとても早く感じました。と思います。「字を書く時の書き順があるように、絵にも描く順番がある」という伝統工芸士の方の言葉に感銘を受ける生徒もいました。

この事業は伝統的工芸品への理解を深めると同時に、高い技術を持っておられる伝統工芸士の先生方から、「生きた言葉と技術」を次の世代に伝えていくことのできる素晴らしい事業だと思います。本校も守るべき伝統を引き継ぎ、これからの時代を担っていく若者たちの育成に今後も励んで行きたいと思います。(美術科 陶芸担当 立井 匡樹)



線描きと濃み付け



絵付けを学ぶ様子

## 2年修学旅行 達成感と感動の旅

2月17日(火)から3泊4日の日程で、2学年の修学旅行が実施されました。最初の2日間は長野県上田市の菅平高原でスキー研修、3日目に東京方面へ移動し、Disneyランド、スカイツリー、浅草寺界隈で自主研修を行いました。菅平高原は積雪1m65cm。初めて見る大量の雪に生徒は目を見張っていました。

初日の幻想的なナイタースキーを皮切りに3回のスキー研修を受ける中で、生徒たちはみるみる上達し、かなりのスピードで頂上から滑り降りてくる者もいました。それぞれのレベルで十分に達成感を得ることができ、充実した研修となりました。

東京Disneyランドでは、半日自主研修を行いました。見学や買い物だけでなく、配布された食事券を使って、昼食・夕食も自分たちで済ませなければいけないので、それぞれに計画を立てて過ごしました。あまりの人の多さに戸惑っている生徒やホテルまでの帰り道で迷った生徒もいましたが、事故も無く終了しました。

スカイツリーでは展望台から富士山まで望むことができ、浅草では人混みの多さの洗礼を再び受けました。最先端の施設と下町情緒という対照的なものを体験することが出来て、見聞が広まったと思います。

スキー研修の際、手首を痛めた2名の生徒が当地の病院で受診しましたが、幸い大事にはいたりませんでした。インフルエンザ等にかかる生徒もいませんでした。天気に恵まれ、全て予定通りに実施することができて、充実した修学旅行となりました。

(2学年主任 宮原 隆史)

